

## 東亞天文協會觀測部月報

### 黄道光課報告 (1933年八月)

課長 荒木健兒

曉東天の黄道光は豫定の通り明るさを増し、やがては銀河をはなれる。宵西天は最困難に屬す。臺灣の松本君が「我一人こゝにあり」と叫んで得意然たるところを「良き敵ぞ組み給へ」と奮然陣頭に馬を進めたのは鋭眼の雄笹部君である。

對日照は本田君の獨舞臺、而も夜半後の觀測を堂々とやつてのけるあたり、山陰の驍將としての名を辱しめない。

八月は珍しくも一個の太陽黒點なく、黄道光の觀測もそれにあやかつて淋しい。全記録の70%までが本田君の努力によつて成つたものであることを特筆したい。

#### 1. 觀測者、觀測地、觀測日一覽

觀測者	觀測地	黄道光 (西天は一)	對日照(夜半後は一)
下保茂	札幌市	31	
笹部榮一	大阪府池田町	1                      26	
本田實	鳥取縣八東村	1    19 20 23    30 31	19 23 23 30 31
松本武男	臺中市	11                      23	

#### 1. 八月1日曉の黄道光

笹部君は3時から見始めてゐるが、本田君は2時25分から觀測を始め、變化を認めたため2時55分までに4個のスケッチを得てゐる、兩君の觀測を見るに、その頂點の高さ及び北偏、中心線の南傾がよく一致してゐる。笹部君は黄道から南に位する細い光帯をハッキリと認め、土星の東方までも明かにしてゐる。橋の如き感があつたさうである。北方に小規模の枝光帯を加へてゐるが、これもかなりの明るさであつた。更に本田君の觀測は面白い、牛座のプレヤデスを包んでペルセウスに延びてゐる枝銀河がいつもより淡く濁つた色に見え、僅かの間に黄道光の南側の外形はアルデバラン星を中心とするヒヤデス群を敬遠して内部にくびれてしまひ、これは3時に至るまで復歸しない。群星の周圍に光が存在する如く感ずるのが常であるが、この反對の現象は何

によるのか理由が解らない。本田君は中心線の移動を注意してゐるが、光帯は加へてゐない。

### 3. 宵西天の黃道光

臺灣の松本君の二個の觀測はスケッチがない。外形不明瞭な淡い光が天秤座の中央あたりまで認められるが確かでない。推定離角は  $90^\circ$  に近い。笹部君は21時35分といふおそい時刻をえらんでゐるが、スケッチしてゐる。淡いけれどもかなり明瞭にとつてゐる。頂點の北偏  $5^\circ$  を起え、位置はあまり高くない。

### 4. 全天に見られた黃道光

本田君は19, 20, 23, 30, 31の5回にわたつて、東天から西天まで續く黃道光を見てゐる。天頂より東にあつて銀河があり、その部分は省略されてゐる場合が多い。西方地平線上の廣い光は對日照と見られやう。大體からいへば下旬に向ふ程明るさが増してゐるが、臨時に淡いこともある。明るい時には多少の變化も認められる。ヒヤデスのあたりのくびれもとられてゐる。

### 5. 札幌で見られた光帯

下保君は銀河を離れて西に光帯をとつてゐる。その位置は黃道より殆んど全く北にあつて狭い。牛の部分が最も明るい。

### 6. 對日照觀測の概況

形は大きくて細長い、中心點は黃道よりもわづかに北にあり、19日と23日と(宵曉共に)には反太陽點よりも東にあり、30日と31日との夜半後には西にある。光帯は東方によく見られてゐる。宵に西方に見えないのは土星の妨げとばかりも言へまい。對日照が黄色がかつて見えることは度々であるが、30日と31日とには赤色がかつてゐるのは面白い。一般に不明瞭な出現で、明るさは北極空が比較にとられてゐる。八月にこれだけの成績があげられれば萬歳といふべきか。

## 遊 星 面 課

**土星の白斑** 其後益々擴つて來て、11月上旬には色もあせて大分見難くなつて來た。宮本氏の觀測では30cmでも境界ははつきりしなくなつて居る。強いて云へば、弧の10分の7位? ではあるが、端の方は總て暗くなるので充分な事も云へず、從つて中央も其處が甚だ定め難い。然し白斑中の濃淡は、淡いけれど今猶ほ見えて居る。

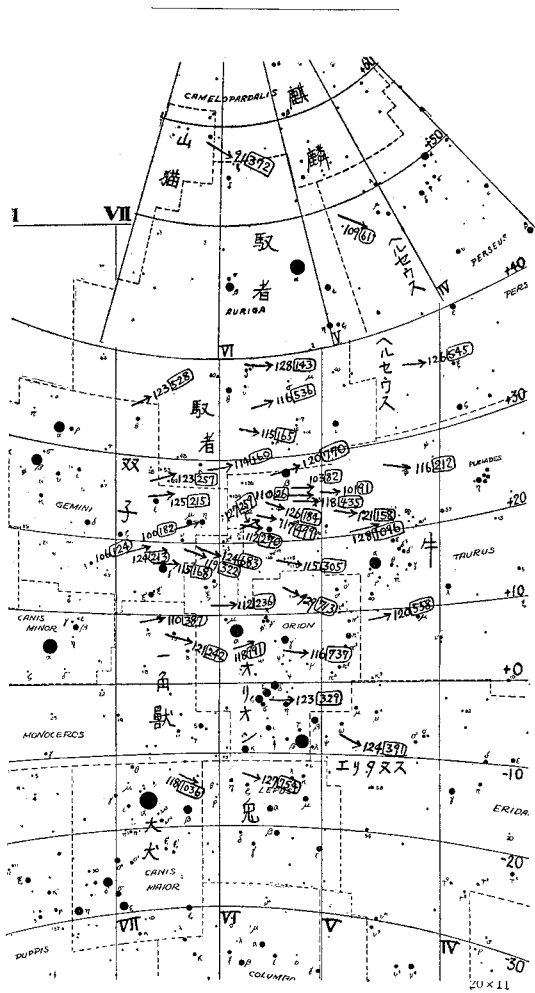
木邊氏の觀測では10cmで10月下旬に初めて氣流の絶好の日に見えたが到底中央子午線の通過時刻等は決定出來なく、B環ほどに明いて程度で、幾分通常の白帯と變つて居た位である。

**金星の觀測** 今迄に模様は見當て居ないが、好機である故、8cm以上の望遠鏡のある人は是非見て欲しい。日没前が好ましく、その時の模様は背後の空の色によく似て居る。

木星 12月になればそろそろ観測出来る様になる。一番見易い星なので、精々多数の方のスケッチを望む。微細な構造が見得なくとも大體の帯の變化だけを集めても面白い結果が得られるから。

猶ほ課員よりのスケッチは大切に保存して、整理後、(返送料を同封の方には)御返する故、大切なものでも心配をせずにとどし(幹事が困る位に)送つて欲しい。猶今までのスケッチも決して自己の成績に御遠慮なく送つて頂き度い。此の點を特に御願上げる。

寫  
眞  
課



一九三三年十二月中旬の小遊星圖

太陽課 黒點相對數報告 (1933年十月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	淺野(山口縣長府町)	山田(山口縣小郡町)	荒木(倉敷天文臺)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	北村(大阪市外布施)	佐々木(京都府福知山)	大橋(京都市中京區)	西村(京都市左京區)	龜井(花山天文臺)	木邊(滋賀縣中里村)	三澤(長野縣上諏訪)	沓掛(長野縣青木村)	清水(静岡縣島田町)	水谷(京都市本郷區)	稻垣(京都市芝區)	石坂(新潟市旭町)	千葉(岩手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)
鏡徑耗	50	70	75	75	150	75	36	70	100	90	60	55	73	73	102	100	38	75	38	50	58
倍率	40	60	48	75	68	77	55	62	64	94	90	64	60	83	75	73	50	30	65	50	44
1	0	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
2	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
3	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
4	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
5	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
6	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
7	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
8	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
9	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
10	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
13	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
14	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
15	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
16	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
17	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
18	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
19	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
20	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
21	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
22	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
23	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
24	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
25	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
26	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
27	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
28	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
29	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
30	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
31	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
平均	3	5	4	2	7	4	5	16	4	4	3	4	5	4	6	7	3	3	4	4	4
日數	24	19	21	16	21	25	18	8	16	8	19	24	23	25	20	20	16	19	10	18	27

●全部の人が直視觀測である。●三澤氏の報告によれば、十月29日に南緯40度、中央子午線の東方10度の所に小黒點3個の一群突發し、翌日消失した由、同日花山カルシウム寫真にも上記と同位置に小さい毛羊斑が現れてゐる。甚だ高緯度である點より、新系列の黒點群の最初の出現ではないかと思はれる。(花山天文臺急報第64號より)。

## 變 星 課

**双子座U星型變光星の觀測要望** 双子座U星に類する不規則變星は一般の新星<sup>1</sup>の研究上にも非常に大切で、熱心な觀測がPayne, Gerasimovic 氏等によつて要望されてゐる。今、此の種の變星として知られてゐるものは

星 名	赤 經	赤 緯	極大	極小	注 意
	(1855.0)				
白 鳥 SS	21 <sup>h</sup> 37 <sup>m</sup> 01 <sup>s</sup>	+42° 55'4	8.1	12.	
双 子 U	7 46 30	+22 22.7	8.8	13.8	
駁 者 SS	6 02 24	+47 46.2	10.5	14.7	
下記の星々は此の種のもので、極大12.5以上だが、熱心に觀測されてゐない。					
鷲 UU	19 49 52	- 9 45.5	10.9	14.0	
獅 子 X	9 43 14	+12 32.8	12.0	15.1	
琴 AY	18 39 29	+37 51.6	12.5	<14.5	
ベガス RU	22 06 57	+11 59.1	10.2	13.1	
ペルセ TZ	2 03 40	+57 41.9	12.4	15.3	Z-Cam.型
ク UV	2 00 13	+56 29.8	12.4	<16.	
乙 女 TW	11 37 57	- 3 37.8	10.5	<14.	
大 熊 SU	7 59 41	+63 01.8	11.1	13.3	
下記の星々は此の種の變星か(?)と疑はれてゐる。					
水 瓶 VZ	21 22 52	- 3 37.3	11.8	<16.0	
蟹 RV	8 01 16	+19 51.7	10.6	11.4	
センタウル BV	<b>13 23 51</b>	<b>-54 25.2</b>	10.5	14.0	春分點1875.0
白 鳥 EY	19 48 59	+31 59.0	11.5	16.0	
双 子 AU	7 36 16	+31 09.2	12.3	<15.1	
琴 CY	18 46 49	+26 34.8	12.	16.	
オリオン CN	5 45 00	+ 5 27.8	11.	14.7	Z-Cam.型
ク CZ	6 08 23	+15 26.8	11.8	16.2	

但し、イタリク字體の光度は寫真光度である。

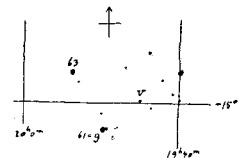
觀測希望の人には花山天文臺から必要な星圖を分配するから、申込まれたい。(但、觀測部員に限る) [A. N. 5979]

**明るい新變星 399.1933.** 獨國 Sonneberg 天文臺の C. Hoffmeister 氏は射手座の6等星 B. D.-14°55'78 (H. D. 187949) が蝕變星であることを發見した。此の星は平常(眼視光度)6.36及び(寫眞的に)6.42の光度で、スペクトルはA2型であるが、伴星の蝕により、光度は1.1(寫眞では1.3)だけ低下する。極小時間は約5時間である。但し、週期は發表されてゐない。因に此の星の位置は、1855.0年の分點によれば、

$$\alpha = 19^{\text{h}}44^{\text{m}}57^{\text{s}} \quad \delta = -14^{\circ}57'9''$$

双眼鏡でも容易に觀測し得る星である。[A. N. 5979]

(第71頁アルゴル星を見られよ)



であつた。

此の流星雨の軌道要素は

天 體	近日點引數 $\omega$	昇交點黃經 $\Omega$	軌道面傾斜 $i$	近日點距離 $q$	計 算 者
流星輻射點より計算	185°42'	196° 0'	35°30'	0.9960	Koebcke
ク	171 42	196 3	37 5	0.9929	Arend
1857 IV 彗星	180 58	200 49	32 46	0.7468	AN. 49
ク	175 49	196 3	27 4	0.9972	Comas Sola
Giacobini 彗星1900 III	171 7	196 43	29 51	0.9319	VJS 43
Zinner 彗星1913 V	171 30	195 52	30 44	0.9759	AN, 196
Schwassmann 彗星1926 VI	171 44	195 56	30 43	0.9933	HBAA('26)
Schorr 彗星1933c	171 45	196 3	30 40	0.9997	

ジャコビニ・チンナリの彗星と關連する流星は、吾人に全く新しいものではない。天界第133號の觀測部報告(第192頁)にある通り、札幌の下保氏は1931年十月十日の夜に龍座から現はれた流星を5個見てゐる。

ジャコビニ・チンナリ彗星は今年四月23日獨國ベルゲドルフ天文臺長 R. Schorr 氏によつて發見され、七月6日に近日點を通過したものであつた。〔天界第149號第332頁〕

觀 測 部 變 星 課 (續き)

アルゴル星の豫報に關する訂正

變光星「アルゴル」の極小光産の豫報を本會發行の天文年鑑に年々掲載して一般の觀測者の便利を圖つて居りますが、今1933年の年鑑の第121頁にある12月の豫報は校正の誤りで、一行づゝづれて居りますから、右記の如く訂正致します。御注意下さい。

12月	
日	時
2	1.8
4	22.7
7	19.5
10	16.3
13	13.1
16	9.9
19	6.8
22	3.6
24	0.4
27	21.2
30	18.0